

お客様各位

NO92 2枚 平成20年2月1日

あとから気がつく「深慮遠謀」

2008.1月号

## せたックス・de・元気

SETACSの水谷さん、税理士試験合格しました。

税理士法人 SETACS 林卓也

TEL 03-3252-4558 FAX 03-3252-4508

メール [takuto@wave.plala.or.jp](mailto:takuto@wave.plala.or.jp)

ホームページ <http://www.diichikeiei-t21>



SETACS 所長であった父林恵二、は平成20年1月11日に永眠をしました。

生前中は皆様方には大変にお世話になりました。

あらためてお礼申し上げます。

これからも事務所一同、がんばってまいりますので、よろしく申し上げます。

### 1. 深慮遠謀の人

「おれは税理士に飽きたから、これからはお前がすべてやれ」

「そ、そう言われても、ぼぼくには」

「もちろん、お前が対処できないことは手伝ってやるから、そうしろ」

これは、15年前くらいの父と私の会話です。私が税理士になって2~3年経ってくらいの時でもあります。また、父が最初の大病にかかったころでもありました。

「あまちゃん2代目」(謙虚だ)、「親の七光り」(おれだよ)などの名をほしいままにしていた不肖の息子(おれおれ)は、途方に暮れた、「どうしよう」。

「それとな、おれの経験から暮とゴルフをやりだすと、のめりこんで仕事ができなくなるから基本的に禁止な」、遊び盛りの30歳台を謳歌しようとしていた不良息子にとどめの一言が突き刺さります。

その後、「おれはいつ死ぬかわからないから、聞きたいことがあったら今うちに聞いておけ」と驚かされ、否が応でもやらなければならなくなった2代目は、本人が宣言した通り税務の仕事からは手を引いた父の助言を受けながらも段々と力をつけ(なんちゃって)、立派に育っていきました(おい、おい)。

そうやって最後の2年間くらいはもう一切税理士の仕事をしなくなり、そして徐々に自分の影響を無くしていきながら静かに息を引き取ったのです。

これはもしかしたら理想の事業承継方法ではないかと父親ながら感心しています。これを15年前から見据えていたとしたらまさに「深慮遠謀の人」であったと言えます。

これからは空の彼方から「七つの光」を放ちながら我々を見守ってくれるのだらうと思っています(七光は消えていないのね)。

### 2. アイデアはどこで生まれるのか

さて皆さんは、物事を考えたり、アイデアを練ったりするのに最適な場所はどこですか。

約1000年前の中国は宋の欧陽修という人が、「文章を書いたり、アイデアを練ったりするには、三上にかぎる」と言いました。「三上」とは、「馬上、枕上、厠上」(ばじょう、ちんじょう、しじょう)のことで、馬に乗って揺られている時や、寝しな、トイレの中でしゃがんでいるときはリラックスして、良い考えが生まれるということです。

この中では、私にとって考えるに最適な場所は「馬上」です。と言っても、馬の上ではなく、電車の中にその場所を求めます。私は毎日事務所の行き帰りに電車に乗ります。行きに昨日の出来事と今日の予定をモールスキン社のハードカバー手帳に書き込み、やらなければいけないことやアイデアが浮かぶともう一つの「なんでも帳」に書き込みます。

でも、もっと好きな環境は、机の前の椅子の上です。机周辺は、今はやりの整理術のお手本のような整然としたきれいな空間であってはいけません。机の上には乱雑に面白グッズや文房具が散らばり、机の周りの書棚・カウンターには様々な本やCD、DVDが所せましに差し込まれたり積み上げられています。その背表紙やタイトルを何気なく見たりする時にアイデアが浮かびます。

よって、新「三上」として、「車上、机上、本上」を提案します。

さあ、皆様はどこでアイデアが浮かびますか。トイレの中ででも考えてみてください。

### 3. 二日酔いにならない方法

最近、若い頃に飲んだ量の半分くらいしか飲まなくなったので、二日酔いにはなかなかありませんが、先日それなりの量を飲んだ翌朝にマラソンの練習のため走っていると、ちょうど折り返し点の6km辺りで気持ち悪くなり、復路6kmを苦労して歩いて帰ったことがありました。

きっと飲んだ酒が、ワインや日本酒だったので良くなかったのだろう、不純物が入っている酒はうまいけど体にはよくなかったのだろう、そうだチャンポンしても二日酔いにならない酒を研究して世間にも発表して、あの苦しみを誰もが味わわなくて良いようにしようと、自己犠牲をも顧みず、社会平和のために立ち上がりました。

そうなると蒸留酒でしょう。

蒸留点を高くして、出てくる不純物を徹底的に取り除き、白樺などの木炭で磨いたうえ、さらにはろ過して、琥珀と化した焼酎やウォトカでしょう。

ギンギンに冷やしたウォッカをグラスに入った氷に注ぎ、すかさずライムを絞りこみ、一杯目をぐいっとのどの奥に放り込みます。「だ・い・な・ま・い・と・・・」、お酒の神様バッカスに十字を切ります。この際、ギリシア神話もロシアもキリスト教も関係ありません。

焼酎は、前に知人にいただいたのですがもったいなくて手をつけていなかった「魔王」。そのコクと香りの豊かさで他を圧倒し凌駕する透明を、まずはストレートで舌の上で転がします。のどに送り込みます。食道で咀嚼します。胃袋に浸透します。「む・ふー」、思わず実験であることを忘れた歓喜の嘆息がもれます。

チーズや野菜をつまみながら、地球の未来(あれ、社会平和じゃなかったの)のために杯を重ねます。

翌朝、ライムと芋の香りがこみ上げてきましたが、蒸留酒だから大丈夫だろうと走り出しました。前にも増した気持ち悪さが襲ってきました。

実験は失敗です。地球を救うことができなかったのです。お酒はほどほどにということなのでしょう。でも、この教訓は飲む寸前までは覚えているんだけど、飲み始めると忘れちゃうんだよねあ。